

二〇一九年二月二五日

一穢なき秋晴鬱を吹つ飛ばす
鎮もりて神苑石路の花明り
落葉掃き済みて陽だまり生まれけり
藁屋根の苔の月日や冬日燦
廃屋の屋根の凹みや嵩落葉
診察台冷ゆる瘦身横たへて

二〇一九年二月二四日

稜線の黒際立てて冬茜
中天に満ちて孤高や冬の月
緑青の灯籠に触れ紅葉散る
冬満月一朵の雲も寄せつけず

二〇一九年二月二三日

干物をたたむ冬日の手触りに
桃割れの鹿の子の見栄え七五三
冬波に浮沈してをる灯浮標
過ぎりつつ伸びする猫や庭小春

二〇一九年二月二二日

落柿舎の障子明かりに集ふ句座
校庭に村人総出芋煮会
木の実降る学校裏に巡查の碑
落つる日に編笠傾げ秋遍路
武者震ひしながら仰ぐ冬満月

明日香
やよい
更紗
たか子
宏虎
菜々
素秀
菜々
ぼんこ
菜々
満天
ぼんこ
素秀
菜々
たか子
智恵子
なつき
ぼんこ
こすもす

二〇一九年二月二一日

ひつじ田や近江平野の斯く広し
二〇一九年二月一〇日
角隠し渡る廊下に照紅葉
鍋底に箸を遊ばせ零余子炒る
屋台みな路地へ湯気立て嵯峨小径
せせらぎの唄ふがごとき小春かな
小走りに来ては啄む石叩き

二〇一九年二月九日

路地寒し言葉少なにすれちがふ
小春日やビルを鏡にダンスの子
結界はひとつの竹嵯峨小径

毎日句会みのる選・二〇一九年二月一七日

せいじ
智恵子
よう子
もとこ
明日香
やよい
満天
うつぎ
たか子